

既存施設活用・収量重視タイプ経営モデル（トマト土耕栽培）

施設はそのままに、最低限の設備投資と環境制御で最大限の増収を目指すタイプです。

経営モデルの前提

経営規模	30a (10a × 3棟)
労働力	家族労働 2.5 人
作型	長期促成栽培
	10月定植
目標収量	20t/10a
目標平均単価	250～300円
目標糖度	5～6度



既存施設（イメージ）



CO₂発生装置

経済性試算（10aあたり）

収量	20,000	kg
単価	275	円/kg
粗収入	550	万円
経営費	432	万円
農業所得	118	万円
所得率	21	%

（経営費内訳）	金額 （万円）
種苗費	33
肥料費	7
農薬費	11
諸材料費	9
施設・機械費*	189
内 環境制御関連	20
光熱水費	86
出荷経費	97

*施設・機械の減価償却費、修繕費等。
なお、減価償却済みの施設や機械を使用している場合は実態に応じて計算する。

<環境制御のポイント>

- ・1～4月にCO₂を施用する。
- ・モニタリング数値に基づき栽培管理を行う。
- ・冬期は急激な換気は避け、湿度の急激な変化を防ぐ。
- ・かん水回数を増やし、植物の蒸散により湿度をキープする。循環扇も効果的。
- ・転流を促すために、必要な時期は午後は高めの温度管理とする。
- ・日射量に応じてかん水と施肥の回数を増やして転流を促す。など

<品種>

- ・黄化葉巻病のリスクが高いため、耐病性品種が望ましい。
- ・桃太郎ホープ、麗妃、みそら109等

環境制御に係る主要な 施設・機器装備	取得 価格 （万円）	年あたり 償却額 （万円）
モニタリング機器	23	3.3
複合環境制御盤 （センサー込み）	69	9.8
CO ₂ 発生装置	50	7.1
合計	142	20.2

設置費等含む 税込み価格

<試算の前提条件>

- ・1200本/10a。苗は購入、2本仕立て接ぎ木苗。
- ・市場出荷（個人）市場手数料8.5%

既存施設活用・収量重視タイプ栽培モデル（トマト土耕栽培）

（作型：9月まき、1～7月収穫、20段どり） 目標収量20 t/10a

